

・明るく・温かく・明日に向かって



K J V A

高知県小学生バレーボール連盟

広報委員会通信

No, 36

令和7年8月1日

第40回記念 四国バレーボール小学生大会 成功

40回という節目を迎えた、四国バレーボール小学生大会。久しぶりの7月末開催。暑い夏に、熱い戦いを！そして、会場を明るくにぎやかなバレーボールパークにしたい！そんな夢をもふくらませ、県小連の組織力をフルに発揮して挑んだ記念大会でした。

まず舞台正面では、今回新しく作られた、四国小学生バレーボール連盟旗が晴れやかな大会を彩ってくれました。会場内に貼られたA3判のチーム紹介パネルの前には、たくさんの選手や応援団の方々が参加チームのセールスポイントをにこやかな顔で見っていました。

行進時には、西内アナウンサーの歯切れのよいアナウンスで、各チームから会場の皆さんへのメッセージが読み上げられました。Tシャツ販売や三和VC・十市小クラブのお世話によるアイスクリン販売も、大会の雰囲気盛り上げてくれました。



各県から選ばれたチームによるバレーボールの各試合も、期待以上でした。ベンチスタッフや応援団とともに戦い成長してきた足跡がうかがえる、すばらしいラリーの応酬が見られ見る人の目を惹きつけました。特に1日目の女子の部は、3セットの試合が6試合もあり、閉会式が午後6時をまわってしまいました。

また、高知県代表7チームも、それぞれの良さを思う存分に発揮し、固いチームワークとバレーボール愛を力に、開催県にふさわしい試合をつくってくれました。大会前の予想では、どのチームも1勝がなかなか難しいとも考えられていましたが、期待以上の結果を残してくれて私たちもたいへんうれしかったです。たくさんの応援団の後押しも、勝利への力になったのでしょ。ただ野市女子があと一歩で優勝を逃したことは残念でした。

今大会は特に「交流・親睦」「教育的配慮」にも拘りました。その象徴が四國小連版ゴールドカードの配布です。各県のモデル的なチームが参集した大会という事で、随所にファインプレー・グッドマナー等が見られ、2日間で合計130枚以上が、参加選手に送られました。

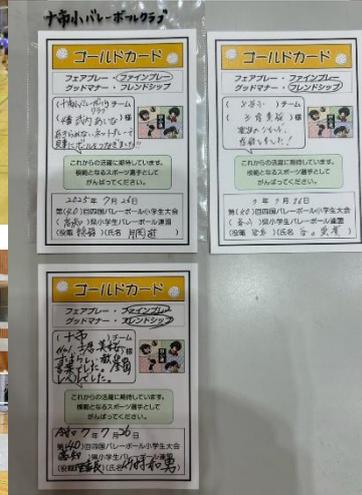
開会式にて、「やなせたかし」をモチーフに、「自分の力とチームのみんなを信じて勇気ある一歩を踏み出そう」という歓迎のことばを述べた十市小クラブの土居美桜さん、「たっすいがはいかん」という言葉から、全力を出し切ることの大切さを伝えた野市男子の山本凜汰朗さんには、県外役員の方からもたくさんのゴールドカードが送られていました。息を合わせてさわやかに選手宣誓をしてくれた野市・鴨田のキャプテン、指導者を踏み台にするぐらいのやる気に満ちた選手宣誓をしてくれた三和主将・副主将にも多くのゴールドカードが出されていました。

子どもたちが描いてくれたイラストが載った今大会のパンフレットの後ろには、今大会から「四小連コンプライアンス遵守宣言」が追記されました。これからも、高知県小連は四國小連と手をつなぎ「目指そう！選手主体・全員活躍型バレーボール！ 四国のきずなで、子どもたちの夢を応援しよう」に向かって、進んでいきたいと思ひます。「四十にして惑わず」

これからも、高知県小連関係者の皆様、これからもご協力よろしくお願ひします。

皆様、どうもありがとうございました。また新しい1ページが加わりました。

大会の日のコマ



歓迎のこぼ から

みなさん、おはようございます！

今日は、四国各県からこの高知にきてくださり、本当にありがとうございます。ようこそ、高知県に、そして南国市においでくださいました。

私は、この南国市に住んでいますが、南国市は、現在NHKの朝ドラのモデルとなっている、アンパンマンの生みの親のやなせたかしさんが子どものころ通った学校があり、やなせさんにとってもゆかりのある土地です。そのやなせさん夫婦をモデルにした「あんぱん」では、主人公が、悩んだり、壁にぶつかったりしながら、周りの人々に支えられ、一步步成長していく姿が描かれています。私も、キャプテンとして、プレーが上手いかず、試合に勝てなくて、なやんだりします。けれど仲間を信じ、みんなと一緒に声をかけ合いながら、ボールをつないでいくことで、はじめて大きな力となることを知りました。バレーボールを通して、成長していることを感じます。

今日の大会では、緊張するかも知れませんが、あんぱんの主人公のように、自分の力とチームのみんなを信じて勇気ある一歩を踏み出し、がんばりたいと思います。みなさんも、今日のために一生懸命練習し、色々な思いを胸に、この大会に来ていることでしょう。上手いかないこともあるかもしれませんが、仲間と自分を信じ、力いっぱいプレーすることは、勝ち負けにかかわらず、きっとこれからの自分の力になると思います。

この四国大会が、仲間との絆をもっと強くし、私たち一人ひとりをさらに成長させてくれる大会になることを期待して、歓迎の言葉といたします。みんなで笑顔いっぱいの大会にして、一緒に夏休みの最高の思い出を作りましょう！

十市小バレーボールクラブ 主将 土居美桜

みなさん、こんにちは！

本日は、四国各県から高知に来て下さり、本当にありがとうございます。ここ高知では、『たっすいがは いかん』という言葉があります。「中途半端はいかん」や「気合の入っていないのはいかん」と言う意味です。バレーボールも同じです。仲間を信じ、最後までボールを追いかける気持ちが大切です。今日ここに集まったみなさんも、熱い気持ちでこの大会に挑んでいると思います。

今日の一球が、きっと思い出になる。今日の一声が、きっと仲間の力になる。

そして、今日の頑張りがこれからの自身になります。

勝っても負けても、胸を張って帰れるように。みんなで最高の大会にしましょう！

四国の仲間が集まるこの貴重な機会を、心から楽しんで下さい。

野市ジュニアバレーボールクラブ 主将 山本 凜汰朗